



## 中国の社会改革と民主化 (中国が世界のリーダーとなる日)

(3月のごあいさつ)

平成30年3月1日(木)

冷戦が終わった20世紀の末、ソ連、東欧、中国などいくつかの社会主義の国家は、ほとんどが崩壊した。ところが、中国だけは改革開放を経て、「社会主義」、「市場経済」という形で存続し、発展している。

しかし、「社会主義」、「市場経済」という中で認められた私有財産と富は、権力と結びついた私的なものであり、社会主義という思想からは矛盾以外の何物でもない。放置すると、腐敗の蔓延となり、腐敗を防げなければ社会や国民の不満は潜在的、顕在的に水面下で拡大して、いつかは爆発し、分裂する。

反腐敗キャンペーンの結果、党中央の政治局委員で重慶市のトップであった薄熙来氏が2012年に、胡錦濤政権で政治局常務委員を務めた大物政治家の周永康氏は、収賄罪と横領罪による不正蓄財で2014年に訴追された。

社会主義市場経済の中のつじつまの合わない私有財産と富、権力≠私有財産から生ずる腐敗という構造的な問題を取り除く方法は、中国の民主化しかない。

経済の発展は、後進国であった状態から、先ず、独裁的な支配体制で強力に産業の発展を図り、経済成長を進める。その開発独裁が成功すると民主化が進み独裁的なやり方をやめることになる。

その過程を遅らせるには、常に国民を満足させる新しい数々の方法の創出と実現が必要である。例えば、(1)絶え間のない腐敗問題の解決、(2)経済成長の継続と国民の生活の改善、(3)新しい思想(一带一路)の成功、(4)台湾の中国復帰と中国の統一、(5)裁判所、司法の独立などである。

それは、民主化までの現国家主席の任期が期限であり、現在の10年の任期では足りないとしても、せいぜい15年程度とすべきである。任期を撤廃するのは暴挙であり矛盾が顕在化する。

2014年11月、中国で開催されたアジア太平洋経済協力首脳会議で、習近平総書記は、中国西部から中央アジアを經由してヨーロッパへつながる「シルクロード経済ベルト」(一帶)と、中国沿岸部から東南アジア、アラビア半島、アフリカ東岸を結ぶ「21世紀海上シルクロード」(一路)の二つの地域を中心に世界経済圏構想を提唱した。そして、その諸政策を実行しつつある。

他国の内政に干渉せず、体制モデルを押し付けないこの戦略は、アメリカによる軍事的リーダーシップとは一味違う、世界の経済的繁栄を主眼とした考え方であり一目に価する。しかし、この理念を実現し、世界のリーダーとなるためには足許の社会改革をスムーズに進め、中国が民主化されなければならない。